

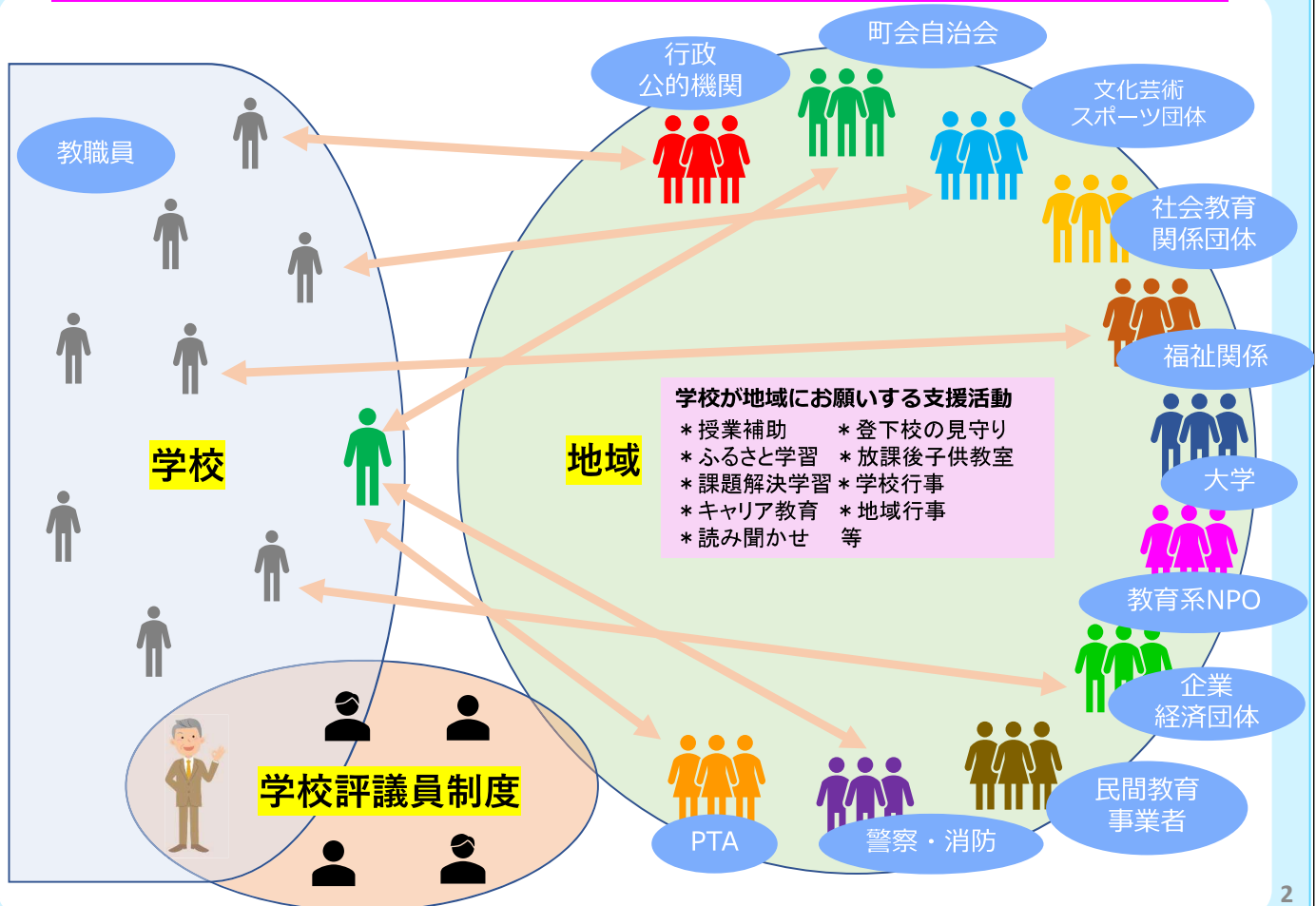


第2回函館市 地域学校協働活動連絡会議

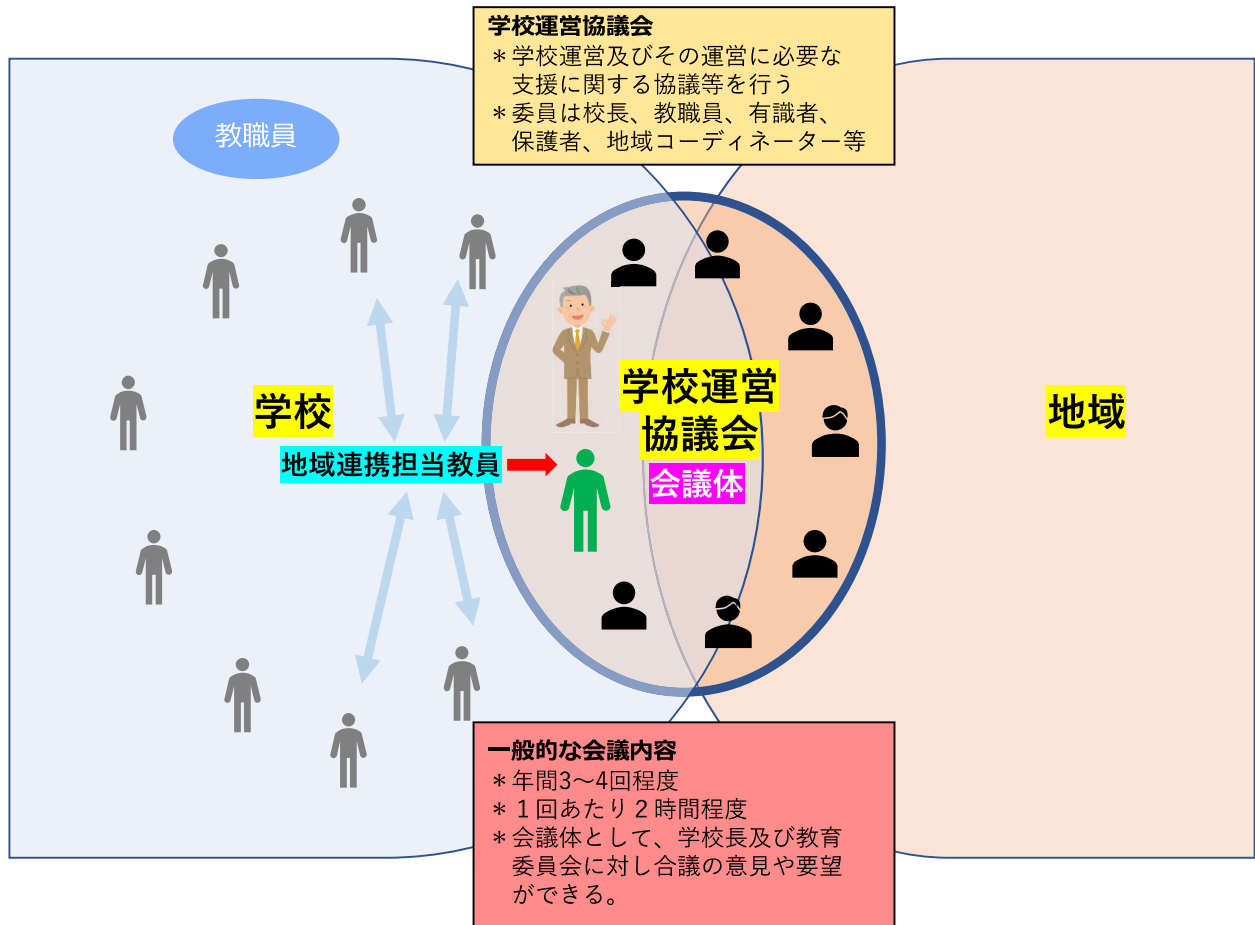
「地域コーディネーターの役割と 熟議の進め方について」

北海道地学協働アドバイザー／社会教育士
青田 基

C S 導入前の学校と地域の関係性イメージ



狭義のコミュニティ・スクールのイメージ



3

Company Logo

コミュニティ・スクールを一言でいうと..

狭義のコミュニティ・スクールと
 広義のコミュニティ・スクールがある

狭義のコミュニティ・スクールとは..
 → 学校運営協議会を設置した学校

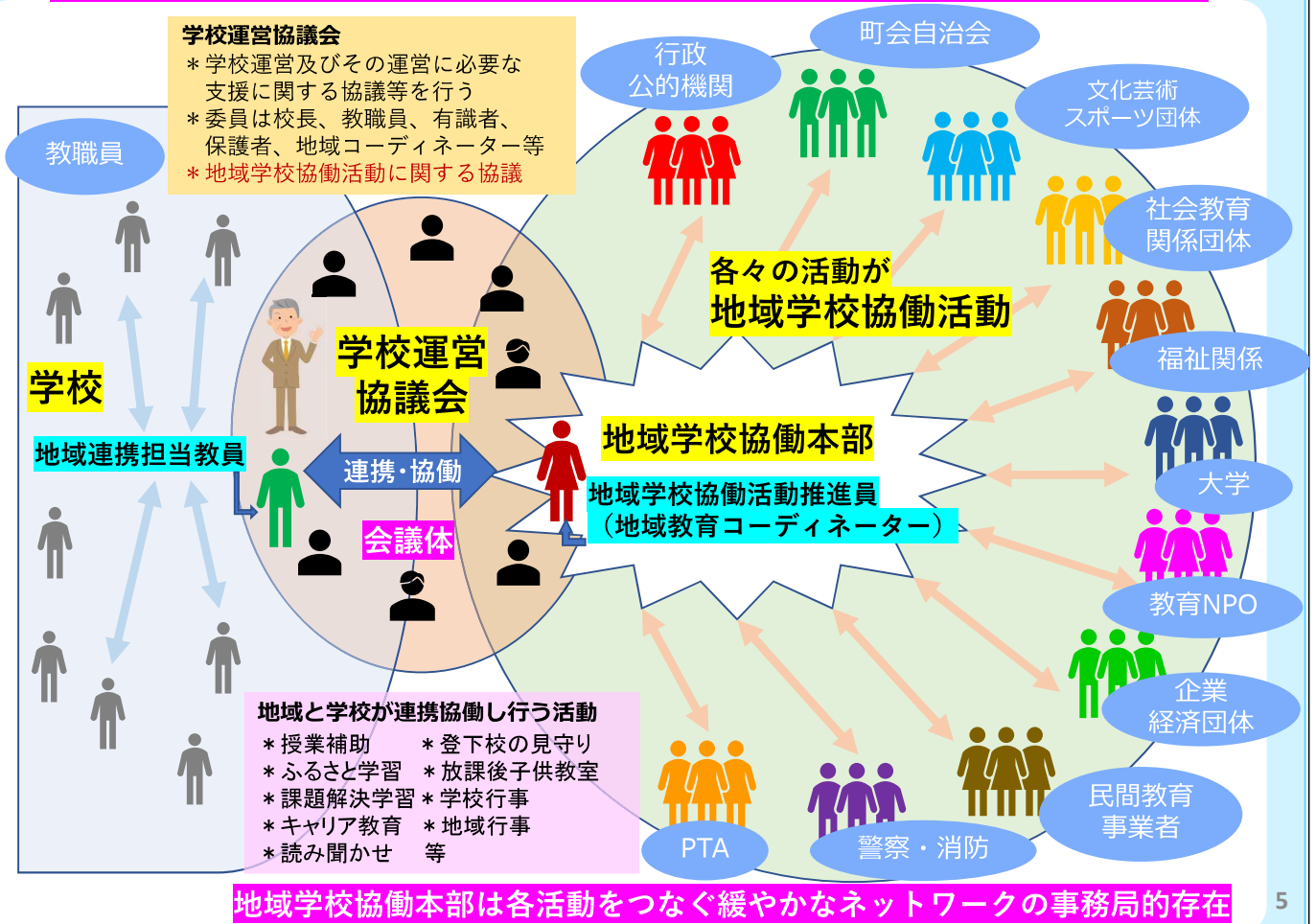


広義のコミュニティ・スクールとは..
 → 学校運営協議会と地域学校協働活動を一体的に推進している学校



4

広義のコミュニティ・スクールのイメージ



広義のコミュニティ・スクール ～両輪の関係～

学校運営協議会 を設置した学校 → **参謀本部**
 (狭義のコミュニティ・スクール) (公的に任命された関係者・有識者)

「**地域とともにある学校づくり**」をする学校の取り組み



- 両者は**車の両輪**のような関係
- どちらも中心にあるのは**子供たちと地域の未来**
- 両者はその**課題解決の仕組み・システム**
- 両者の間をとりもつ**コーディネーター**が重要

地域学校協働活動 → **実働部隊**
 (子供たちの成長を支える地域活動のネットワーク) (主に地域のボランティア)

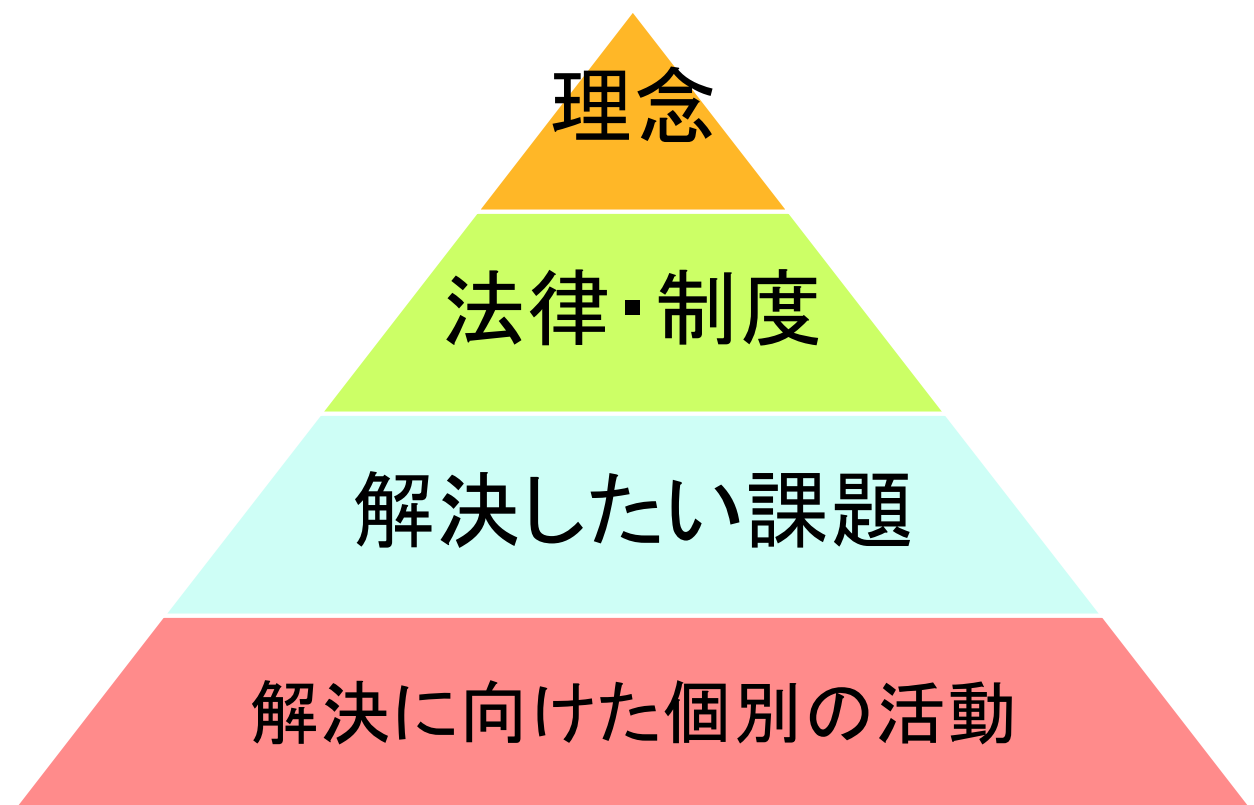
「**学校を核とした地域づくり**」をする地域の取り組み

学校運営協議会と学校評議員・PTAとの違い

■ **学校評議員**は、校長の求めに応じて**学校運営**に関する意見を個人として述べるものであるのに対し、**学校運営協議会**は、学校運営、教職員人事について関与する、**一定の権限を有する合議制の機関**であるなど、その役割は異なるものです。

■ **PTA**は、学校及び家庭における教育の理解と振興や、児童・生徒の学校外における生活指導などの社会教育活動を目的とする**社会教育団体**として、**学校と家庭をつなぐ役割**を持ち、**学校の教育活動に協力を行う**ものであり、学校運営協議会とはその役割、機能を異にするものです。

コミュニティ・スクールの仕組みを理解しよう



コミュニティスクールの基盤となる考え・理念

「誰かが何とかしてくれる、のではなく、自分たちが『当事者』として、自分たちの力で学校や地域を創り上げていく。子供たちのために学校を良くしたい、元気な地域を創りたい、そんな『志』が集まる学校、地域が創られ、そこから、子供たちが自己実現や地域貢献など、志を果たしていける未来こそ、これからの未来の姿である。」

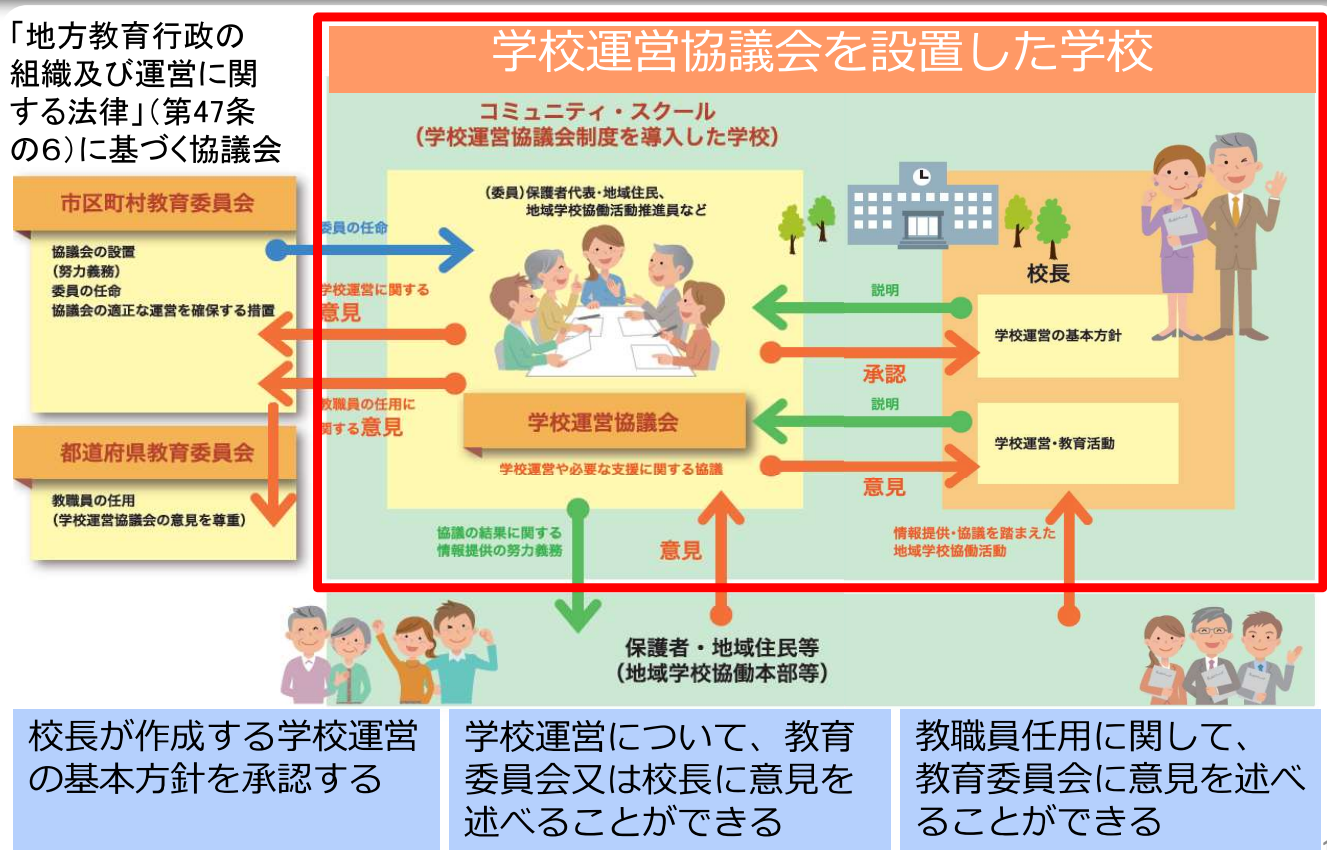
* 中央教育審議会答申(平成27年12月21日)

「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働のあり方と今後の推進方策について」

9

制度としてのコミュニティ・スクール (狭義)

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」(第47条の6)に基づく協議会



10

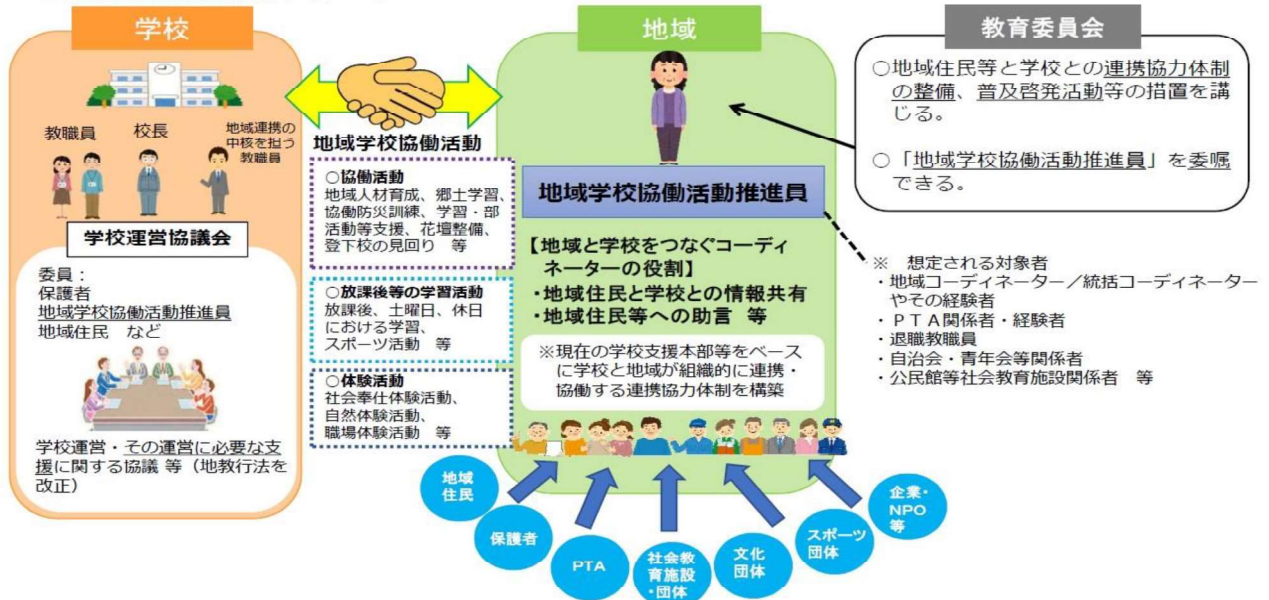
制度としてのコミュニティ・スクール

地域と学校の協働体制の構築に向けた法改正について

改正の概要(平成29年3月改正、同年4月施行)

平成27年12月の中教審答申(地域と学校の連携・協働)を受け、地方教育行政の組織及び運営に関する法律を改正し、各教育委員会に、保護者や地域住民が学校運営に参画する仕組みである学校運営協議会の設置を努力義務化。また、地域と学校が連携・協働し、幅広い地域住民や保護者等の参画により地域全体で子供たちの成長を支え、地域を創生する「地域学校協働活動」を全国的に推進するため、社会教育法を改正し、同活動に関する連携協力体制の整備や「地域学校協働活動推進員」に関する規定を整備。これらにより、幅広い地域住民等の参画を得て、社会総掛かりでの教育を実現し、地域を活性化。

<地域と学校の協働体制のイメージ>



コミュニティ・スクールの条件

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」(第47条の6)に基づく協議会であることが規則や要綱に示されていること。

教育委員会や学校が作成した規則・要綱等を根拠に設置されていること。

地域住民および保護者が学校運営や教育活動に意見を述べていること。

教育委員会から委員の任命・委嘱が行われていること。

学校運営協議会の委員について

非常勤特別職の公務員として、教育委員会から任命される。

合議体の協議会運営者として、**当事者意識**を持って臨むことが求められる。

多様な立場、多様な意見の委員の参画を強みにできるように。

自立した運営を行うことも大切

* 司会 * 記録 * 事務 等を委員が率先する

司会進行
ファシリテート

地域学校協働
活動推進員



記録担当

学校に任せきりにせず
各委員が主体性を発揮

13

学校運営協議会と地域学校協働活動

**学校運営協議会が設置されたからと言って
コミュニティ・スクールが機能する訳ではない**

学校運営協議会の委員は10名程度

学校運営協議会は年間3～4回の会議

地域と学校が連携協働し、実際に活動する人がいてこそコミュニティスクールは機能する

子供たちと学校と地域をより良くしたいと願い、ボランティア精神で協力してくださる多くの方々の活動を「地域学校協働活動」と呼びます。

14

(資料) 地域とともにある学校づくり推進フォーラム2022 兵庫(2022年6月11日)
正しく学ぶこれからのコミュニティ・スクール ～ 国の動向と取組の方向性 ～

コミュニティ・スクールの導入により、
子供を中心にして、地域全体を一つにまとめる次世代の地域づくりを推進

地域とともにある学校づくり

- ・ 地域に開かれた学校 (相互の連携・協働体制の構築)
- ・ 地域に支えられる学校 (学校のための地域)



学校を核とした地域づくり

- ・ 地域づくりの拠点としての学校 (地域のための学校)



地方創生に貢献、さらには国・世界の発展に貢献

15

(資料) 地域とともにある学校づくり推進フォーラム2022 兵庫(2022年6月11日)
正しく学ぶこれからのコミュニティ・スクール ～ 国の動向と取組の方向性 ～

学校と地域をとりまく課題解決のための仕組み

学校の課題



学校における働き方改革

ICT機器の活用 等

子供の課題



リアル体験の不足

子供の問題行動 等

地域の課題



地域防災

若者の地元定着 等

コミュニティ・スクールにより、地域全体で解決に向けて取り組む

16

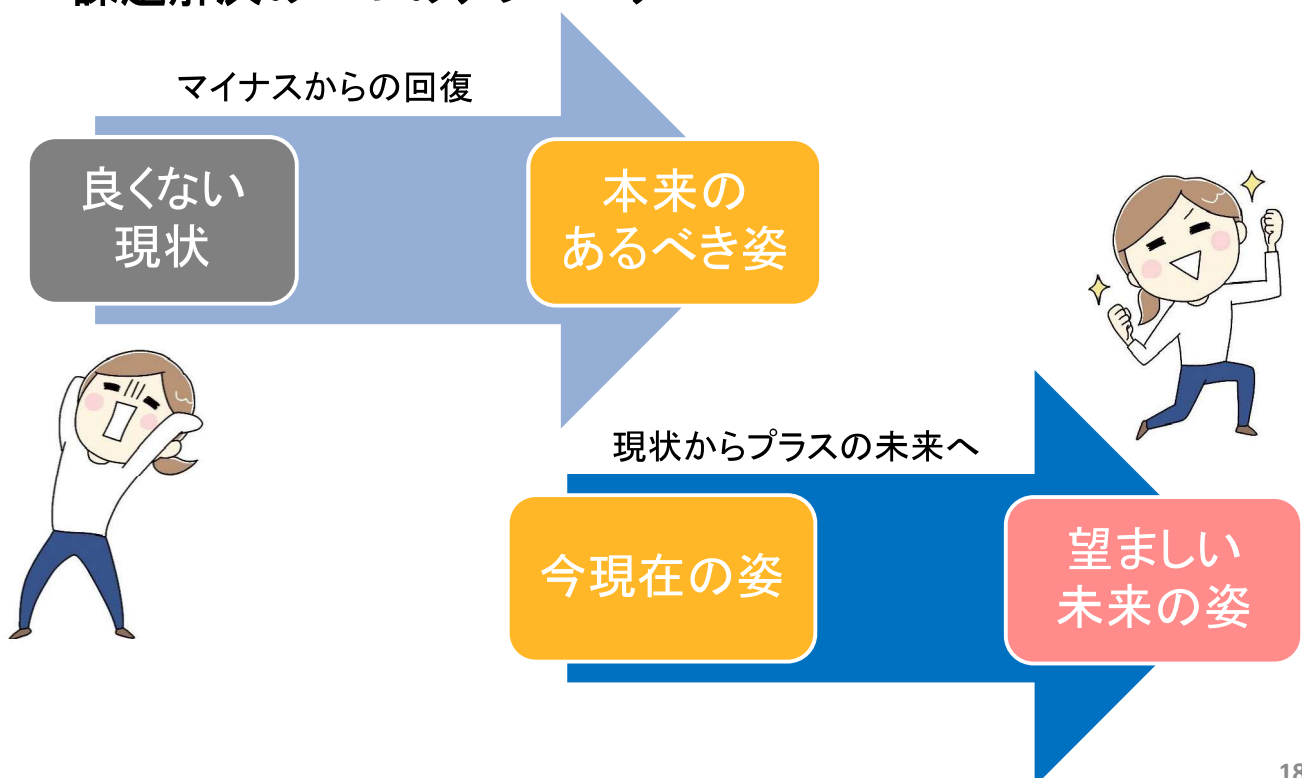
「学校×地域の協働」ワークショップ

コミュニティスクールを始めるにあたり、子供と学校と地域の未来をめぐるビジョンの共有を図るため、保護者や地域住民そして教職員で「子供たちが地域や学校でどう育ってほしいか」というテーマでワークショップを開催することをお勧めします。

それぞれ異なる立場から、それぞれに気になっている課題を出し合うことで、連携・協働の機運が高まり、主体的に関わってくださる方が増えて行きます。

課題解決、私たちにできることは・・・

■ 課題解決の二つのアプローチ



課題に気づいてしまったあなたへ

昔とある方から言われました。

「君ね、気づいてしまった人にはさ、
自動的に責任が生まれるんだよ…」

ただし、その責任を果たさなかったとしても、他の誰かから責められるということはないけどね…」

19

課題解決、私たちにできることは…



③ 解決策を考え、行動に移す

② あるべき姿、理想の未来をイメージする、考える

① 現状と課題を知る



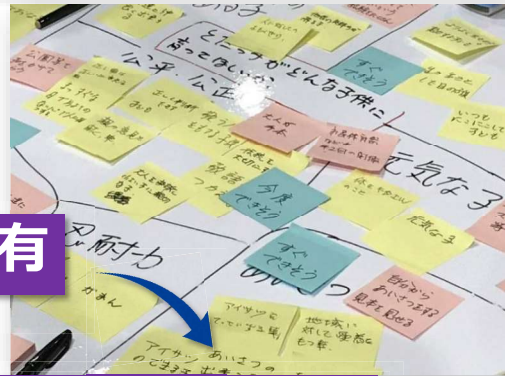
20

コミュニティスクールの成功の秘訣は・・・



情報の共有

成功体験
の共有



課題・目標
ビジョンの共有

熟議

アクションの
共有（協働）



21

学校と地域の信頼関係の構築

学校運営協議会での協議
(学校運営協議会委員)



多くの当事者による熟議
(保護者・地域住民・教職員)

<地域とともにある学校の運営において大切な視点>

- ①関係者が当事者意識をもって「**熟議**（熟慮と議論）」を重ねること
- ②学校と地域の人々が「**協働**」して活動すること
- ③学校が組織として力を発揮するための「**マネジメント**」



熟議

関係者がみな当事者意識を持ち、子供たちがどのような課題を抱えているのかという実態を共有するとともに、**地域でどのような子供を育てていくのか、何を実現していくのかという目標・ビジョンを共有**するために「熟議（熟慮と議論）」を重ねることが大切です。

協働

学校と地域の信頼関係の基礎を構築した上で、**学校運営に地域の人々が「参画」し、共有した目標に向かってともに「協働」して活動していくことが大切です。**

マネジメント

その中核となる学校は、校長のリーダーシップのもと**教職員全体がチームとして力を発揮**できるよう、組織としての**マネジメント力**を強化していくことが大切です。

22

地域学校協働活動とは 具体的な活動例

学びによるまちづくり。 地域課題解決型学習・郷土学習

- 地域資源を理解し、その魅力を伝えたり、地域活性化のための方策を考え、実行する学習活動
- 「ふるさと」について地域住民から学び、自ら地域について調べたり発表したりする学習活動
- 地域の産業や商店街の職場体験学習、郷土の伝統・文化芸能学習 など



放課後子供教室

- 地域住民の参画を得て、放課後等に全ての児童を対象として行う、学習や体験・交流といった多様な活動



地域未来塾

- 全ての児童生徒を対象に、教員OBや大学生などの地域住民の協力によって行う学習支援



家庭教育支援活動

- 寄り添いが必要な子供、不登校傾向のある子供等への対応について、保護者が学び合う機会づくり など



学校に対する多様な協力活動

- 登下校の見守り、花壇や通学路等の学校周辺環境の整備、子供たちへの本の読み聞かせ、授業の補助や部活動の支援、企業等による出前授業等の教育プログラムの提供 など



地域の行事・イベント、お祭り、ボランティア活動等への参画

- 地域イベントにおけるボランティア体験学習、伝統行事やお祭りでの伝統文化・芸能の発表や楽器の演奏、地域の防災訓練への参画 など



23

(資料) 地域とともにある学校づくり推進フォーラム2022 兵庫(2022年6月11日)
正しく学ぶこれからのコミュニティ・スクール ～ 国の動向と取組の方向性 ～

コミュニティ・スクールに関する詳細な情報や全国の事例等は、文部科学省のHPに掲載

The screenshot shows the MEXT website page for 'School and Community for the Future of Learning'. The main headline reads '地域みんなの力で子供たちの未来を拓く' (Expanding the future of children with the power of everyone in the community). Below the headline, it states: '地域と学校の連携・協働は、教育と子供たちの明日へ心を寄せるすべての方々に支えられています。' (Cooperation and collaboration between community and school is supported by everyone who cares about the future of education and children). The page features a navigation menu with categories like '自治体の方' (Local Authorities), '学校教職員の方' (School Staff), and '地域学校協働活動推進員' (Community School Cooperation Activity Promoters). There are also search filters for text, standard, expanded, background color, and font size. A large banner image shows children playing in a park with a green plant growing from a globe. At the bottom, there is a call to action: '未来を担う子供たちの豊かな学びや成長を支えるためには、地域と学校がパートナーとして連携・協働することが重要です。' (To support the rich learning and growth of children who will take on the future, it is important for community and school to cooperate as partners).

“学びの未来” で検索

北海道の取り組み



北海道
北海道教育委員会
北海道トップ
教育委員会トップ



カテゴリから探す



組織から探す



防災情報



Google 検索
検索
ハートに、リーム、
戻してごらん、優しい気持ち。

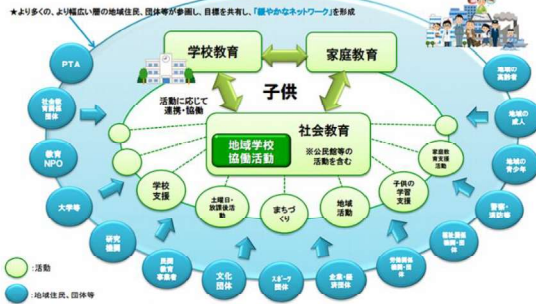
HOME > 教育庁 > 生涯学習推進局社会教育課 > 地学協働とは

地学協働とは

- 北海道教育委員会では、**地域学校協働活動**を「**地学協働**」と称し、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働する活動を積極的に展開し、**地域と学校のWin-Winの関係**を構築します。
- 地学協働は、地域の高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民等の参画を得て、**地域全体で子どもたちの学びや成長を支える**とともに、「**学校を核とした地域づくり**」を目指して、**地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働**して行う様々な活動です。
- ●子どもの成長を軸として、地域と学校がパートナーとして連携・協働し、意見を出し合い学び合う中で、**地域の将来を担う人材の育成**を図るとともに、地域住民のつながりを深め、自立した地域社会の基盤の構築・活性化を図る「**学校を核とした地域づくり**」を推進し、**地域の創生につながっていく**ことが期待されます。例えば、高校生が地域に出て行って地域課題の解決に向けた学習を行う、地域住民と共に地域課題を解決するための事業を企画・実施する、地元産の農産物を活用した商品開発に参画して共に地域づくりに関わるといった活動などが挙げられます。

地域全体で未来を担う子供たちの成長を支える仕組み（活動概念図）

① 次世代を担う子供に必要となるさまざまな能力を育成するために、地域を巻き込み、地域を核とした学校が協働。
② 従来の地域単独だけでなく、新しいつながりによる地域の教育力の向上を実現。地域課題解決に向けた連携・協働につながり、持続可能な地域社会の基盤となる。



カテゴリ

- > 地域と学校の連携・協働
- > 地域と学校の連携・協働
- > 施策（社会教育）
- > 関連事業

生涯学習推進局社会教育課メニュー

- ① 注目情報
- ② 会議・審議会・協議会
 - > 北海道社会教育委員の会議
 - > 北海道生涯学習審議会
 - > 北海道生涯学習推進本部
 - > 北海道心の教育推進会議
 - > 北海道立図書館協議会
- ③ 地域と学校の協働活動（地学協働）
 - > 地学協働とは
 - > コミュニティ・スクール
 - > 地域学校協働本部
 - 北海道CLASSプロジェクト（地

北海道の取り組み

北海道の地域と学校の連携・協働を応援する広報誌

地学協働

01
2022年10月

Hokkaido community and school collaboration
北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課

1 地学協働と本広報誌について

道教委では、コミュニティ・スクールや地域学校協働活動を「地学協働」と称し、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働する活動を積極的に展開し、Win-Win の関係の構築を目指しています。

地学協働は、地域の高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動です。

また、子どもの成長を軸として、地域と学校が意見を出し合い学び合う中で、地域の将来を担う人材の育成を図るとともに、地域住民のつながりを深め、自立した地域社会の基盤の構築・活性化を図る「学校を核とした地域づくり」を推進し、地域の創生につながっていくことを目指しています。

この度、地学協働の普及と一層の推進を図るため、道内における様々な地学協働の取組や情報を、教職員や行政職員、関係機関の皆さんに向けてお伝えするため、本広報誌を発行することとしました。

つきましては、職場や地域において、地学協働を普及・推進するための参考資料としてご活用ください。

学校(コミュニティ・スクール) ↔ 地域

学校運営協議会
学校運営・その運営に必要な支援に関する協議など

地域学校協働本部

地域学校協働活動

学校と目標やビジョンを共有

地域と目標やビジョンを共有

委員として参画

人材・活動などのコーディネート

地域学校協働活動推進員

地域住民
保護者
PTA
民間企業
NPO
自治体
関係機関

1
文部科学省「これからの地域と学校」（令和2年3月）から抜粋

2 北海道のコミュニティ・スクールの状況

コミュニティ・スクールは、学校運営協議会を設置している学校のことで、学校と地域が子育ての目標を共有し、地域総掛かりで、協力して子どもを育てようという仕組みです。

ここでは、令和4年9月に文部科学省が公表した調査結果や北海道独自調査結果から、道内において学校運営協議会を設置している学校の状況や、学校運営協議会でのどのようなことが話し合われているのか、学校運営協議会を設置した成果を紹介します。

① 道内において学校運営協議会を設置している学校の状況（札幌市を除く）

年度	幼稚園・こども園	小学校	中学校	義務教育学校	中等教育学校	高等学校	特別支援学校	合計
令和4年度 (5月1日現在)	19 45.2%	646 85.1%	385 0%	15 17.2%	0 53.7%	37 73.2%	36	1,138
令和5年度 (予定)	18 43.9%	714 95.6%	430 0%	19 25.2%	0 100%	54 84.5%	67	1,302

文部科学省「コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動実施状況調査」（令和4年9月）

② 学校運営協議会で話し合われていることや成果

右上の表は、小・中学校の学校運営協議会で話し合われている議題の上位5つです。

校長が学校運営協議会で教育課程（学校教育の目的や目標を達成するために総合的に組織した学校の教育計画）に関して説明し、目指す子どもの姿を学校運営協議会委員をはじめ地域住民と共有することで、地域と学校が連携・協働した取組を進めています。

また、右下の表は、教育委員会が所管する小・中学校に学校運営協議会を設置した成果としてとらえていることの上位5つです。

学校運営協議会を設置することで、「学校と地域が情報を共有ようになった」、「地域と連携した取組が組織的に進められるようになった」などの成果が見られ、地域とともにある学校づくりを実現していることがうかがえます。

2
道教委「コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動実施状況調査」（令和4年9月）

コミュニティ・スクールの成果

- **学校側の変化(地域とともにある学校づくり)**
 - ◎地域との信頼関係が深まり、教育に参加してもらうことで、教職員が子供と向き合う時間が増し、教育活動に厚みを生み出せます。
 - ◎地域に目を向けて、多様な人々と関わる経験は、教員の知見を広げることにもなり、指導力の向上が期待できます
- **教職員の变化(働き方改革)**
 - ◎勤務時間及び地域との連携協働の心理的負担の軽減が図られます。
- **地域側の変化(学校を核とした地域づくり)**
 - ◎子供たちが地域の一員という意識を深め、ふるさとへの愛情が深まります。
 - ◎地域の人々がつながる場として学校が機能することで、地域の人間関係が広がり、地域のネットワークが形成されます。
- **子供達の変化**
 - ◎地域のいろいろな人が学校に関わるため、学びに多様性が生まれます。
 - ◎地域の大人に見守られることで、子供が地域とのつながりを実感し、安心感が生まれます。

地域コーディネーターの役割

- ◇学校と連携協働可能な個人や団体をリストアップし、地学協働本部に情報を集約しておく
- ◇学校現場と地域、できれば子供たちの声を歩いて拾い集める
- ◇解決すべき課題を熟議(WS)により見出し共有する
- ◇課題を分類し、解決の優先順位を考える
- ◇課題解決に必要なステークホルダー(関係者)とボランティアを集めチームをつくる
- ◇学校と地域の間に入り諸々の調整を図る
- ◇課題解決のための活動をコーディネートする

地域教育コーディネーターって どんな役割？

地域と学校をつなぐパイプ役

■ 一般的なコーディネーターの役割

何かと何かをつなげる役割



企画・立案	地域や学校の実情に合わせた地域学校協働活動の 企画・立案
連絡・調整	学校や地域住民、民間企業・団体・機関等の関係者との 連絡・調整
募集・確保	地域ボランティアの 募集・確保・育成
事務・経理	地域学校協働本部の事務 処理 ・経理 処理
情報提供	地域住民への 情報提供 ・助言・活動促進

■ コーディネーターに適した人

- * 社会的信望があり、子育て教育に熱意と識見がある人
- * 子供たちの状況を理解できる人
- * 学校の現状を理解できる人
- * 地域の実情を把握できる人
- * コミュニケーション力のある人
- * フットワークの軽い人
- (一人でも複数人のチームでも可能)

地域教育コーディネーターって どんな役割？

◇学校のニーズと目標の共有

定期的に学校を訪問し、先生方と話す機会を積極的につくります。先生方の「○○したい」「○○できる人いないかな」の声に耳を傾けると、ニーズの把握につながります。その活動(授業)を通して、子供たちにどんな資質・能力・態度を育みたいか、目標やねらいを共有することが大切です。

◇地域のニーズと意思の把握

各種会合やイベント等に参加し、地域住民の思いやニーズ(要望)等を把握します。ボランティアの確保にもつながります。

◇ニーズとシーズのマッチング

学校のニーズに応じて、選した方へ声掛けし、ボランティアの依頼をします。地域のニーズは学校への提案につながりますが、場合によっては慎重な連絡や調整が必要です。

◇活動実践に向けた連絡・調整

活動の実施に向け、先生(地域連携担当者や担当学年)や学校の事情を理解した上で調整が必要です。ボランティアと一緒に打合せを行います。当日をイメージして行くとそれぞれの動きや必要な準備物等が見えてきます。

◇活動当日の支援・記録

当日は子供たちのためにボランティアが活動しやすいよう、活動の支援や記録を取ります。

◇活動に関わる情報の収集・発信

学校のニーズに応じて、選した方へ声掛けし、ボランティアの依頼をします。地域のニーズは学校への提案につながりますが、場合によっては慎重な連絡や調整が必要です。

◇学校とボランティアのネットワークづくり

活動に必要なボランティアの募集や、実践した活動についてお便り等を作成し、情報発信を行います。地成学校協働活動となる地域イベント等の情報収集・発信も行います。また、協力したボランティアへのお礼状の送付も大切です。

◇活動等の提案

支援から連携・協働に促していくためには、地域コーディネーターから多様な地域住民が参画しやすいような企画を提案していくことも必要です。

コーディネーターに、 役立つスキルって何だろう？

ここで言うスキルとは、コーディネートする上で知っておきたいちょっとした「コツ」を言います。

コーディネーターに期待されているのは**つなぐ力**。ただし**上手につなぐ**にはそのためのスキルも必要。

企画・立案	地域や学校の実情に合わせた地域学校協働活動の 企画・立案
連絡・調整	学校や地域住民、民間企業・団体・機関等の関係者との 連絡・調整
募集・確保	地域ボランティアの 募集・確保・育成
事務・経理	地域学校協働本部の事務 処理 ・経理 処理
情報提供	地域住民への 情報提供 ・助言・活動促進

それぞれの
役割に応じた
スキルが
必要です

① 聴く力

コミュニケーションの基本は聴くことです。相手の話を「聴いているよ」とサインを出すことが大切です。

★ポイント★

- ・相手の話を最後まで聴く。
- ・相手の話を否定しない。(一度は**受け止める**)
- ・分からない時は、素直に質問する。

やってみよう！

- ・相手の目か口元を見る …… 優しい表情で
- ・うなずきながら聴く …… はい、え～、なるほど、などを加えて
- ・相手の言葉を繰り返す …… ○○なんですね、○○ということですね
- ・メモを取る ……

② 伝える力

相手の立場になって、相手が分かりやすく話すこと。相手を嫌な気持ちにさせないことが大切です。

★ポイント★

- ・自分の思いを一方向的に話さない。
- ・専門用語やカタカナ語には気をつける。
- ・場合によっては、文字で伝える。(メール、メモ等)
- ・「大丈夫でしたか？」
「何かわからなかったことありませんか？」
等の一言を添えて相手に伝わったことを確認。

やってみよう！

- ・相手の目か口元を見る …… 明るい表情で
- ・声のトーン、話すスピード、言葉遣いに気をつける
…… 上から目線はNG
- ・ポイントを絞って伝える …… 一度にいくつものことを伝えない
- ・PREPの法則を使う …… 下記参照

P	Point ……質問に対する答え、自分が一番伝えたいこと 『私の意見は～です/ 私は～だと思います』
R	Reason……その理由 『なぜならば～だからです/ 理由は○つあります。1つ目は～』
E	Example (Explain) ……例を出す(詳しく説明する) 『例えば～ / ということかという～、説明すると～』
P	Point ……もう一度伝えたいことをまとめる 『だから、私の意見は～です/ だから、私は～思います』

③発信する力

どこに(誰に)、どんな情報を、どうやって発信するかを明確にすること。発信ツールは様々です。

★ポイント★

- ・事前に学校やボランティアの取材、撮影、掲載許可をもらう。
- ・ボランティアへの撮影、記録のルールを説明する。(特に撮影NGの児童・生徒の確認、個人が特定されないような配慮が必要)

主な情報発信ツール

- ・〇〇通信、〇〇便り
- ・ホームページ、ブログ
- ・SNS (Facebook、Instagram、等)
- ・動画配信 (Youtube、ニコニコ動画、等)
- ・マスコミ (TV、新聞、コミュニティFM、等)
- ・地域広報紙、等

- ・情報収集スキル
- ・情報編集スキル
- ・ライティング・スキル
- ・撮影スキル
- ・WEB制作スキル
- ・パソコン・デジタルツール操作スキル
- ・マスコミとの人脈
- ・コミュニティ施設との人脈

④動く力(フットワーク)

地域と学校、人と人をつなぐにはフットワークの軽さも大切です。ストレスにならないように、いつでも手軽に動ける準備をしておきましょう。

★ポイント★

- ・自分への連絡がいつでも取れるようにしておく。
- ・相手とのアポイントはできるだけ早くを心掛ける。
- ・取材、連絡調整、打ち合わせに等に必要なモノはいつでも持ち歩けるようにしておく。

フットワークの軽さが活きる場面

- ・学校からの支援依頼を、支援団体につなげる
- ・地域活動への参画依頼を、学校へつなげる
- ・学校運営協議会の協議内容を、関係者に伝える
- ・地域学校協働活動へのボランティア依頼を、地域住民につなぐ
- ・地域イベントへの参加を、児童生徒及び保護者へ伝える
- ・地域の児童生徒と、地域の産業団体や経済団体などをつなぐ などなど

⑤事務する力

活動には事務が付きものです。会計や報告書作成、資料作りなどをします。

★ポイント★

- ・事務仕事はためないこと。
- ・習うより慣れろ、でやってみる。
- ・はじめは習熟者の力を借りる。

勉強したほうが良いこと

- ・簡単な簿記の知識
- ・ワード、エクセル、パワーポイントなどの操作
- ・ビジネス文書の書き方

⑥企画する力(プロデュース)

地域と学校をつなげて、地域の教育課題を解決するのコーディネーターの腕の見せどころ。課題を見つけ、課題を解決する方法を考えましょう。

★ポイント★

- ・関わる人がやりがいやワクワク感を感じられるものにチャレンジすること。
- ・一人ではなくチームで取り組めること。

やってみよう!

- ・地域の子供たちを観察して気になる点を見つける。
- ・同じ課題を感じている仲間を集める。
- ・ミーティングの場を設ける。
- ・みんなで熟議しながら、解決策を考える。
- ・いつ、だれが、どこで、なにをするか決めて動き始める。

⑦関わる力(ボランティアに活躍してもらう)

- ・次回のテーマです

⑧熟議の場をデザインする力(ファシリテーション)

- ・次々回のテーマです



コミュニティ・スクール & 地域学校協働活動

地域コーディネーター 自主勉強会を開きませんか?

第1回 コミュニティ・スクールと地域学校協働活動
の基礎知識

第2回 地域教育コーディネーターの役割と具体的な仕事

第3回 地域教育コーディネーターに必要なスキル

第4回 地域学校協働活動のボランティアとの関係づくり

第5回 熟議に必要なファシリテーションのスキル